

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：32613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23560770

研究課題名(和文) 農林水産業の建築遺産に関する研究 - 静岡県を例として

研究課題名(英文) Research on the architectural heritages to use for agriculture, forestry and fisheries in Shizuoka Prefecture

研究代表者

後藤 治 (GOTO, OSAMU)

工学院大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：50317343

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：農林水産業関係の建築遺産は、これまで着目されておらず、とくに生産や加工に関わる施設(建築物、工作物、仮設物等)についての調査研究は少ない。本研究では、静岡県を例に調査を行い、その歴史上や景観上の意義を明らかにした。

調査の結果、農林水産業の施設が形成する特徴ある景観は、季節の一時期だけしかみられないものが多いことが判明した。また、生産・加工に関わる施設は、長い年月の中で現在の形になったことが判明した。各種の産物は、地形や気候風土が作用するため、関連する施設も地域の特徴を生かした形になっていることも判明した。

研究成果の概要(英文)：We researched on the architectural heritages to use for agriculture, forestry and fisheries in Shizuoka Prefecture. Architectural heritage is building, structure and etc. We compared these heritages with the heritages in other prefectures to take the special features of Shizuoka. Our conclusion is following.

These heritages became the present figure and facilities over long time. Almost all these heritages are concerning with production of the specialties in local area. The specialties of local area have a close relation with the local climate and geographical feature. Therefore these heritages utilize and adapt the local climate and geographical feature. These heritages are one of the elements and identities of the local built environment. Almost all these heritages are built only one time of the season. Temporally installation is one of these heritages. The local built environment featured by these heritages provides scenery changes with seasons.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：産業遺産 仮設物 文化財 文化的景観 植物系資材 リサイクル 食文化 地域文化

1. 研究開始当初の背景

近年日本では、景観法・文化財保護法に基づく文化的景観、或いは世界遺産(自然、文化) GIAHS(世界重要農業遺産システム)世界及び日本ジオパークによって、伝統的或いは文化的な景観を保全しようとする動きがある。これらによって保全される対象には、構成要素として建築物や土木構造物等の施設が含まれている。

保全へのニーズが高まる一方、関連する施設に関する調査研究は、棚田や井戸等の一部を除き、ほとんど行われていなかった。既往の研究も民俗学による研究がほとんどで、そのほとんどは県史、市町村史の民俗分野の項で記述されている記録であった。

その中で、筆者等は、数年前から農林水産業関係の建築遺産に着目しており、雑誌『国づくりと研修』(財団法人全国建設研修センター発行)において「活きつづける農業土木遺産」という連載を行っていた。また、静岡県の茶産業に関わる建築遺産については、産業という側面で製茶と建築との関係の研究を行ってきた。そのなかで、茶畑に必要なとされた施設(仮設物を含む)、製茶関連の工場といった、従来ほとんど注目されてこなかった建築遺産の歴史的な意義を日本建築学会等において報告を行っていた。

先行する上記の調査研究を進めてきたことにより、二つの課題も認識していた。ひとつは保全の考え方や方法の問題、もうひとつは衛生と保全の問題である。

農作物や海産物は採集される季節が決まっており、採れるものも季節によって異なるので、それらに関わる伝統的な景観も、季節とともに変化するのが常である。したがって、本来ならその変化も含めて保全の対策を講じて行かなければならないが、建築物や土木構造物を保全の対象とすると、保全措置が断片的になってしまいがちである。さらに、粗末でありながらも不可欠な生産に必要な施設は、生産物が無い時期には、景観を阻害するものと捉えられる場合もあった。また、農林水産業が形成する景観を維持するには、業態そのものが維持されて行かなければならない。GIAHSでは生産システムそのものを対象としているが、特に文化的景観ではその対象とする範囲も曖昧で、国からの保全への補助が、産業そのものを維持することに役立っていない。これが第一の課題である。

近年、日本の農漁業で加工される伝統的な食については、日本伝統食品研究会等で文化的な面の研究も行われている。また、農林水産省や各農政局が、季節の景観を WEBSITE で紹介するなど積極的に PR も行われている。その一方で、食品衛生法や製造物責任法、生産地履歴(トレーサビリティ)等で衛生面での規制が強化されたことにより、製造が躊躇される伝統食も登場している。本研究で調査した多くの伝統食品は、この衛生問題とも密接に関係しており、これが第二の課題である。

この課題については、法規制と建築物という点で、これまで筆者らが行ってきた研究と合致するという背景もあった。

2. 研究の目的

本研究では、静岡県を例に、農林水産業の生産や加工に関わった歴史的な建築物・工作物や仮設物を網羅的に調査することを目的とした。対象地域を静岡県に限定したのは、これまで研究を行ってきた茶産業の施設とそれ以外の農林水産業に関わる施設とを比較検討し、業種による類似性や相違点を見ることができるからである。

本研究では、農林水産業関係の生産・加工に関わる施設の歴史的意義や景観上の意義、環境に果たしてきた役割を明らかにすることも目的とした。特に、仮設物については、一時的に景観を創出する役割を担っていたり、間伐材の利用や廃棄物の再利用に役立っていたりするなど、これまでに見落とされていた意義を明らかにすることも目的とした。

3. 研究の方法

静岡県の各地を、伊豆地方と山間地、沿岸部に分けて、季節の産物に応じて実態調査を行った。漁業に関しては、静岡県は伊豆地方に集中しているため、伊豆を中心とした。

まず、県下の伝統的な産物を文献資料等で拾い出し、同時に県下の知人等から各地の産物を聞き取りし、対象をリストアップした。そのうち県史、市町村史の記述から、比較的長く続いている業種を選定した。

その上で、現地調査を行い、歴史的な施設(仮設物を含む)や景観を写真撮影し、同時に GPS により位置を記録する。歴史的な施設や景観が特に集積している地区については、改めて詳細調査を行い、施設の詳細な実測調査を行った。同時に関係者から、施設の建設方法・維持管理方法、資材の調達・廃棄方法等について、ヒヤリング調査を行った。

また、静岡県以外の地域において、類似する事例の調査を行った。それと静岡県内の事例を比較することにより、調査した事例の特徴をより明確に把握した。

4. 研究成果

調査研究の結果、農林水産業の施設(建築物・工作物・仮設物等)が形成する特徴ある景観は、季節の一定の時期に限ってのみ見られるものが多いことが判明した。また、土地を代表する産物の生産や加工が始まった時期は様々だが、生産・加工に関わる施設は、長い年月の中で現在のような形になったことが判明した。同時に、各種の産物は、地形やその土地の気候風土が直接的に作用するため、生産・加工に関わる施設も気候風土と密接に関係しており地域の特徴を示す要素となっていることも判明した。

一方、実測調査や聞き取り調査の過程で、調査先からは建築史に限らず過去に同様の

調査が為されたという話は聞かれなかったことから、本研究の萌芽性が確認できた。

ごく短い期間で採集される産物に関わる施設は、同時に複数調査することが難しく、また夏や冬など産物が乏しい時期もある。そのため、本研究では静岡県内の網羅的な調査を心がけたが、必ずしも達成できていない。静岡県だけを取り上げても、県下全域の把握にはより多くの歳月を費やす必要がある。

構法に着目すると、静岡県には季節ごとに仮設的な建築物や工作物を建てる例は少ない。仮設的な建築の例では、下田市の伊勢海老の干場のように、毎年木材や竹を用いてその季節になると家族や地域総出で建設し、材料が傷むと交換するというサイクルがとられてきたものが多い。近年は、構造に建設現場の単管足場(鋼管)を用いて基礎を固定するなど、永久的な素材を用いて常設するものが増加し、毎年建て替えるという様子が減少している。

ミカンや茶など、静岡県の特産物に関わる簡易建築物については、第二次世界大戦前の事例も多く現存する。畑や茶畑は、戦後の農地整備やブルドーザー開墾などの近代的な整備の繰り返しで、古い簡易建築物が残る例は少ない。珍しい例では、茶畑がミカン畑に改植されたことで、昭和30年代の茶の生葉を一時置きする簡易建築が現存することが確認できた。

以上の研究成果については、下記の通り成果の発表を行った。

総括的な内容については、図書において発表した。では、静岡県の例の他、静岡県ではあまり見られなかった仮設的に季節ごと建てる工作物を中心に、全国の類例を調査した事例を収録した。主に伝統的な産物を生産するための仮設物とそれによって生じる景観に注目しており、文化的景観の保護の問題等についても触れている。また、〔その他〕

のように、の出版に関連する成果もある。その内容はの「10+1 web site」(LIXIL出版)でも公開されている。

茶産業を中心とした静岡県下の産業を扱いながら、他地域の類例を参考に県下に存在することの意義を論じたものがある。また、歴史的な施設や景観が特に集積している地区を調査したものがある。さらに、近代から現代へと至る過程で製造方法を発展させた設備を備えた建築を分析したものがある。加えて、類例として調査を行った愛媛県の実例を参考に、産物が築く景観について論じたものがある。

調査対象の施設は、ひとつひとつは小規模で簡素なものが多く、各々を建築史的な視点で研究論文として扱うのは簡単ではない。そのため、まちづくりや地域おこしをテーマとした講演において、その成果を発表している。例えば、〔その他〕の成果のように、季節の産物を扱って地域おこしの資産として関連付けることで、一般の人々でも理解し

やすく、意義を受け止めやすいという特徴もある。これらの調査研究の成果は、文化財の保存や歴史を活かしたまちづくり、観光等に活かすことが可能である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

二村悟：農林水産業の建築遺産について伊方町を例に、伊方町町見郷土館研究紀要、査読無、51-54、2014.3

二村悟：稚内市における棒ダラのナヤについて、2013年度日本建築学会北海道支部研究報告集第86回、査読無、507-510、2013年6月

二村悟：茶を中心とした産業における建築史研究の役割、茶文化学術情報誌 茶の文化11号、全国茶商工業協同組合連合会、査読無、113-133、2013.3

後藤治、二村悟、富士養鱒場の飼育関連施設、国づくりと研修129号、全国建設研修センター、査読無、30-33、2012年1月

二村悟、後藤治、製茶工場における茶ブレンドのための仮装置について 日本建築学会技術報告集36号、査読有、745-748、2011年6月

〔学会発表〕(計6件)

二村悟：製茶の検査に用いられた遮光装置の成立過程について、2014年度日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、2014.8

熊木良平・二村悟・後藤治：A case of the MARUMO HONDA SEICHA tea factory in Fuji Shizuoka: Research on the architectural heritage of agriculture-and-forestry fisheries(Part1), Proceedings of THE 5th International Conference on O-CHA(tea) Culture and Science (The Organizing Committee of the 5th International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science)、2013年11月7日、Proceeding(CD-ROM版) PR-P-72, ABSTRACTS, The 5th International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science(ICS2013), November,2013,p65

二村悟・熊木良平・後藤治：A case of the KUSUMORI tea factory in Fukuoka Ukiha: Research on the architectural heritage of agriculture-and-forestry fisheries(Part2).、Proceedings of THE 5th International Conference on O-CHA(tea) Culture and Science (The Organizing Committee of the 5th International Conference on

O-CHA(Tea) Culture and Science) 、
2013年11月7日、Proceeding(CD-ROM
版) PR-P-73、ABSTRACTS, The 5th
International Conference on
O-CHA(Tea) Culture and
Science(ICS2013), November,2013,p66

二村悟、後藤治、植田みこと、佐藤洋子：
島田市伊久美二俣地区の西野家製茶工場
について 農林水産業の建築遺産に関す
る研究 - 静岡県を例として 3、2013年度
日本建築学会大会学術講演梗概集(北海
道) 895-896、2013.8

植田みこと、二村悟、後藤治、佐藤洋子：
島田市伊久美二俣地区の製茶施設につい
て 農林水産業の建築遺産に関する研究
- 静岡県を例として 1、日本建築学会大
会学術講演梗概集(東海) 67-68、2012
年8月 名古屋大学

二村悟、植田みこと、後藤治、中島裕衣
子：ヤマジユウ増田商店の鯉節工場につ
いて 農林水産業の建築遺産に関する研
究 - 静岡県を例として 2、日本建築学会大
会学術講演梗概集(東海) 69-70、2012
年8月 名古屋大学

〔図書〕(計1件)

後藤治・二村悟：食と建築土木 たべも
のをつくるしかけ(建築土木) LIXIL 出
版、ISBN978-4-86480-007-5、2013年11
月(2013年11月25日全国学校図書館協
議会選定図書高等学校の部で選定、2014
年4月『学校図書館基本図書目録2013.1
~12』(毎年、前年1年間で選定した図書
の中から厳選した図書の掲載本)に選定、
2014年6月辻静雄食文化賞受賞)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページでの研究成果の公開
[https://www.facebook.com/pages/工学院
大学建築デザイン学科後藤研究室旧科研
費成果公開/334075199983795](https://www.facebook.com/pages/工学院大学建築デザイン学科後藤研究室旧科研究費成果公開/334075199983795)

後藤治 + 三原寛子(南風食堂) 二村悟：
【『食と建築土木』刊行記念・対談】海・
山のかたちがつくる味、下北沢、本屋B&B、
2014年2月4日、10+1WEB SITE PICK
UP

[http://10plus1.jp/monthly/2014/03/post-
93.php](http://10plus1.jp/monthly/2014/03/post-93.php)

講演

後藤治(工学院大学教授) + 三原寛子(南
風食堂) 二村悟：【『食と建築土木』刊行
記念・対談】海・山のかたちがつくる味、
下北沢、本屋B&B、2014年2月4日
ジオセミナー「近代化遺産による地域づ
くり」講演会、二村悟：身近な近代化遺

産を地域にどう活かすか、西予市教育委
員会ジオパーク推進室、会場・西予市高
山公民館、2013年12月18日

特別講演会！「近代化遺産にみる佐田岬
半島の魅力」講演・二村悟：産業系遺産
の見どころ、トークセッション「近代化
遺産で佐田岬が光るために」パネラー・
二村悟、岡崎直司、高嶋賢二、伊方町町
見郷土館、会場・伊方町生涯学習センタ
ー5階多目的ホール、2013年12月18日
二村悟：静岡茶業の建築文化について、
静岡茶協働研究会・静岡産業大学 O-CHA
学研究センター、会場・静岡産業大学情
報学部(藤枝キャンパス)茶室「楽茶庵」、
2013年12月13日

二村悟：農林水産業の建築遺産 静岡県
と茶産業を中心に、茶学の会、第88回茶
学の会例会、会場・袋井市立中央・南公
民館、2013年9月29日

二村悟：先人の歩んできた功績 菊川赤
レンガ倉庫の由来、主催：NPO 法人菊川
まちいき、2013.2

6. 研究組織

(1)研究代表者

後藤 治 (GOTO OSAMU)

工学院大学・建築学部・教授

研究者番号：50317343

(2)研究分担者

(3)連携研究者

二村 悟 (NIMURA SATORU)

工学院大学・建築学部・客員研究員

研究者番号：70520013